

## 今週のメニュー

### [トピックス](#)

PVC News No. 71を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

### [随想](#)

オックスフォード便り(その3)

- 「オックスフォードとファンタジーと世界遺産」 -

関東学院大学 織 朱實

### [編集後記](#)

## トピックス

PVC News No. 71を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

12月15日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は[PVC News No.71](#)を発行いたしました。トップニュースでは塩ビミニハウス(Vien Pod)の紹介。インフォメーションは建築・建設業界の2社取材し、それぞれが取り組んでいるゼロエミッション活動を紹介しています。

「視点・有識者に聞く」のコーナーでは毎日新聞社の小島正美氏にご登場いただきました。

No. 71の構成は以下の通りです。

トップニュース

『塩ビ業界の新提案、環境配慮の塩ビミニハウスが話題』

視点・有識者に聞く

『「正義感」と「リスク思考」の狭間で』

毎日新聞社 生活報道部 編集委員 小島 正美 氏

リサイクルの現場から

『中部地区の塩ビ管リサイクル拠点、武田機工(株)の取り組み』

インフォメーション1

『大成建設(株)のエコモデル・プロジェクト/平河町森タワー』

インフォメーション2

『ミサワホーム(株)の新築現場ゼロエミッション活動』

講演会レポート

『JPECセミナーを大阪、東京で連続開催』

塩ビ最前線

『広がる!塩ビ管スピーカーの仲間の輪』

広報便り

『中央区「2009 こどもとためす環境まつり」に参加(VEC)』

『「堺水道展」で塩ビ管の耐震性をPR(塩化ビニル管・継手協会)』

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「視点・有識者に聞く」のコーナーでは『「正義感」と「リスク思考」の狭間で』と題し、毎日新聞社生活報道部の小島編集委員のお話。マスコミ報道の中ではリスクにだけ注目し、ベネフィットも含めたリスク全体を考える観点が欠落していることに言及しています。そういった偏ったメディアの情報をチェックし、的確な情報を流してもらうためにリスク論の立場から報道を検証しようというメディア・パトロールの動きが活発になりつつあるとのこと。

インフォメーションでは、現在注目されているゼロエミッション活動の取り組みを紹介しています。建築・建設業界2社の担当者の方から、独自のアイデアなどを伺いました。

一つ目は大成建設（株）がエコモデルプロジェクトとして建設している平河町森タワーでのゼロエミッション活動です。建設中に発生する廃棄物を現場で徹底して分別し、最資源化を進めリサイクル率99.4%を達成しています。分別は、一般廃棄物11品目、産業廃棄物54品目（計65品目）とゼネコン各社の中でも突出した細かさとのこと。ゼロエミッションを進める上では、現場の作業員全体の意識改革のために、作業員リーダーらが片付けや分別の状況を定期的にパトロールしたり、自己啓発のために分別大会や中間処理施設見学会を実施したり、産廃処理業者の社員の方の協力を得て分別指導をしていただくなどさまざまな取り組みがなされたそうです。

二つ目はミサワホーム（株）の新築現場でのゼロエミッション活動を紹介。今年の6月から稼動した関東資源循環センターを軸にした独自の回収システムです。関東資源循環センターを関東物流センターの敷地内に併設し、建設資材を納品するための物流ネットワークと廃棄物の回収ネットワークを一体的に運営しています。関東物流センターからデポと呼ばれる中継基地を経由して住宅部品を納品し、帰りの空の便で建築現場からデポに集められていた木くず、廃プラスチック、石膏ボードなどの10種類に分別された廃棄物を関東資源循環センターに回収する仕組みで、既存のネットワークを生かして資源を滞りなく循環するシステムが構築されています。

塩ビ最前線では[5年前に紹介](#)した「塩ビ管スピーカー」の最新情報を取材しました。テレビ番組で取り上げられるなど、関心は静かに広まりつつあります。

その音色は塩ビ管の長さを調整したり、吸音材を使用したりなど様々な工夫が加えられて作り出されています。

12/10～12に開催されたエコプロダクツ展で塩ビ管スピーカーの音色をお聴きいただいたところ、ものめずらしさも手伝って大変好評でした。



エコプロダクツ展にて：テレビの下で活躍中  
[クリックでズーム](#)

『PVCニュース』はJPECのHPから、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

<http://www.pvc.or.jp/>

ご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

[info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

## オックスフォード便り（その3）

- 「オックスフォードとファンタジーと世界遺産」 -

関東学院大学 織 朱實

オックスフォードは、ファンタジー・ファンにとっては「え？ここは、もしかして・・・？」という、とっておきの場所がいくつもある、かなりマニア垂涎のエリアでもあります（私も密かなファンです）。

普通に有名なのは「不思議の国のアリス」。作者のルイス・キャロルが教えていたクライスト・チャーチの食堂には、アリス・リデルのステンドグラス、教会の中にはアリスのお姉さんをモデルにしたステンドグラスもあります（美人姉妹だったのですね）。観光客が必ず訪れるアリスグッズ（アリスのイラスト入りエコバックとか、時計とか）がてんこ盛りのアリスショップもカレッジの真ん前に。カレッジの中には、ウサギが入っていく青い木戸のモデルになった木戸もあるらしいのですが（そこまでは、学生でないと入れないのでまだ見つけられず。来年の帰国時までには寮生のお友達を作りたいものです）。写真のステンドグラス中央がアリスのお姉さんがモデルの天使、アリスショップの看板。



少しマニアックになると「指輪物語」（映画のタイトルは「ロード・オブ・ザ・リング」）の作者トルキンがよく作品について議論をしていたというパブ The Eagles and Child、さらにホビット村の舞台になったといわれているのが町の中心から自転車で15分くらいの石造りの建物が並ぶ村 South Hinksey（ここは息子の学校の近く。雄大な牧草地とオックスフォードチャンネルに挟まれています）。「ナルニア国物語」のC.S.ルイスもオックスフォード出身です。



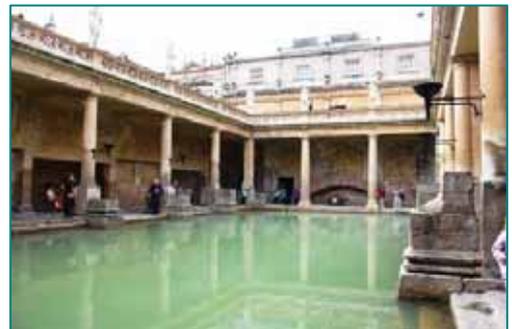
さらに、さらにマニアックな世界になると（笑）、「黄金の羅針盤」（映画のタイトルは「ライラの冒険」）。主人公のライラはオックスフォードの架空のカレッジの寮で生活していますが、しょっちゅう抜け出していたずらするのがジャリコ・エリア（この運河は我が家の真ん前で、[その2](#)の写真です）。オックスフォード博物館所蔵のナイフさらに頭蓋骨も重要なキーワードに、最後に恋人とお別れするシーンの舞台が植物園の木戸前のベンチ、と、写真でお見せしたいスポットがいくつもあるのですが、オックスフォードでは12月に入ってからずっと雨が降りつづき、写真を撮るような雰囲気ではなし（運河が氾濫する恐れもあり、毎日家の前の水位を恐る恐る見ています）。ということで前回のメールマガジンで、「次回はオックスフォードに関連した小説ネタを」という予告をしましたが、写真は室内写真ばかりになってしまいました。かわりにOxford近くの世界遺産を二つご紹介します。

一つはブレナム宮殿。町のバスセンターから約30分。チャーチルの生家でもあります。これが凄い！ベルサイユ宮殿、サンサーシー宮殿といろいろ見てきましたが、ブレナム宮殿はこれらの錚々たる宮殿に匹敵する(もちろんこじんまりとはしていませんが)庭園のち密さ、部屋の調度品の数々の華麗さ、建築物としての荘厳さ、広大な森美しい湖と、本当に見所がいっぱいです。なによりベルサイユ宮殿ほど混んでいないのがいいですね。地元の人が、ゆったりお弁当を食べたり、ボール遊びをしたりと、かなり気軽な世界遺産です。宮殿内のガイドさんは地元のボランティアの方々ですが、みんな地元の世界遺産が自慢でしょうがないという感じで「ここは、秋も冬も、夏も素晴らしいのでどの季節も見てほしいのですが、やはり5月、6月のバラの季節が素晴らしいですね」と熱く語ってくれます。園内の巨大迷路(生垣で作られています。これもまた映画「シャイニング」の世界。英国人は生垣迷路大好きですよ)と宮殿を結びミニSSLが走っているのも楽しいです。



しかし、「英国でびっくりしたことその2」になりますが、英国の摩訶不思議な料金体系がここでも。1日入園料(14ポンド)を払うと、なんと！年間無料パスポートを発行してくれます(写真つきのしっかりしたカード)。もちろん、我が家は全員無料パスポートを作って、「今日は、天気がいいからちょっとブレナム宮殿に行こうか」とか贅沢に世界遺産を堪能しています。クリスマスのデコレーション(撮影禁止なのでご紹介できないのが残念。英国の貴族はケタ違いですね)、メサイヤとか季節ごとのイベントもてんこ盛りです。

そうして、もうひとつの世界遺産は「お風呂(Bath)」の語源になったBath Spa(こちらは電車で1時間)。ローマ時代からの温泉で、今もこんこんとお湯が沸いています。街自体がとても綺麗な石作りで、特に高台にあるロイヤル・クレスセントは三日月型のアーチが本当に美しい建物です。長く私の中で「英国で一番綺麗な街」だったのですが、10年ぶりに訪れたら昔の風情が少しなくなっていたようで残念。英国の古い街々では、時の流れが東京やNYに比べてかなりゆっくりしているようですが、それでも確かに少しずつ流れていっているのでしょうかね。速さの違いはあったとしても、どの街にもそして誰にも同じように平等に、時はその跡を残していくのだな、と改めて感じさせられる秋のBathでした。次回は、「英国でびっくりしたことその2」として英国の不思議な料金体系の数々とその実験ということで飛び出した欧州各国の様子をご紹介しますね。(つづく)



前回の「オックスフォード便り(その2)」は、下記からご覧頂けます。

[http://www.vec.gr.jp/mag/250/mag\\_250.pdf](http://www.vec.gr.jp/mag/250/mag_250.pdf)

## 編集後記

もう師走も半ば。一年早いなと驚きつつ年の瀬の実感が湧きません。

しかし家では年賀状の準備は？餅つきやるから臼と杵を出してなどなど。

そして仕事では先週開催された「エコプロダクツ展」私たちのブース内で子供たちに囲まれ、もみくちやにされるのもすっかり12月の恒例になりました。



今年のメルマガは本号でお休みとなります。来年は1月7日から始めます。皆様ありがとうございました。来年も変わらぬご愛顧をお願いします。(リマル)

## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)